

## 令和4年度第1回横須賀市文化振興審議会 議事概要

日時: 令和4年(2022年)9月29日(木)

14:30~16:15

場所: 市役所3階301会議室

**【出席委員】** 秋岡委員、崎山委員、藤井委員、山本委員、若江委員、  
吉田彩子委員

**【欠席委員】** 石川委員、芳賀委員、蛭田委員、吉田秀樹委員

**【事務局】** 文化スポーツ観光部 倉林部長  
文化振興課 森課長、新野主査、遠藤主任

**【傍聴者】** なし

### <配布資料>

- 資料1 横須賀市文化振興審議会委員名簿
- 資料2 横須賀市文化振興審議会規則
- 資料3 文化振興基本計画(現行)
- 資料4 YOKOSUKA ビジョン2030
- 資料5 文化振興基本計画改訂素案

### <議事内容>

#### 開会

会議の成立(委員10名中、6名出席のため、会議は成立)

#### 議事

##### 1 委員紹介

森課長から委員紹介

##### 2 委員長および職務代理人選出

山本委員が吉田彩子委員を委員長に推薦。

全委員から吉田彩子委員を委員長とすることについて承認された。

吉田彩子委員長が山本委員を委員長職務代理人として指名した。

##### 3 文化振興基本計画の改訂における諮問について

倉林文化スポーツ観光部長が諮問書を読み上げ、吉田委員長に諮問書を交付。

倉林部長は挨拶後、公務のため退席し、事務局から各委員に諮問書の写し配布。

#### 4 文化振興基本計画の改訂について

事務局（資料5「文化振興基本計画改訂素案」を説明）

委員 では、文化振興基本計画改訂素案について、ご質問やご意見を承りたいと思います。

事務局 本日、ご欠席の委員からご意見のFAXをいただいています。今日、読み上げさせていただく方がよろしいか、次回の方がよいか、いかがでしょうか。

委員 欠席委員からご意見をいただいているということで、お書きになったものが届いているということです。先立ちまして、お読みいただくことでよろしいのではないのでしょうか。

事務局 気付いたことということで読み上げさせていただきます。

- ・障害のある人たちへの学習機会は重要かつ必要であるので、そのチャンスを生かすようにして欲しい。
- ・高齢者対象のワークショップはこれからますます重要である。
- ・アーティストの育成の機会は今後も活かしてほしい。
- ・子どもを対象とした美術館ワークショップは将来を考えると必要で重要である。
- ・これからは質的評価をどのように進めるかが課題である。
- ・これからの横須賀市を考える上で、よく検討されている。さらに発展させてほしい。

委員 各項目にわたってご意見をいただきました。ありがとうございます。それでは、ご出席の委員の皆さまから計画の改訂について、改訂素案が第1章・第2章とありますので、それに従って、まずは第1章について、ご意見、ご質問がございましたら、お願いいたします。

委員 些末ですが、改訂素案3ページの※2の3行目「変化力に進むまち」の箇所、「変化【を】力に」ということで、【を】が抜けていますね。

事務局 失礼しました。入力誤りかと思えます。ご指摘ありがとうございます。

ます。

委員 前段の部分が以前はとても長かったものが整理されている、以前の第2章、第3章がまとめ直されていて、読みやすくなっていると思います。

委員 以前のプロセスですと、文化振興審議会とパブリックコメントの間に市民説明会というものが入っていましたが、今回は入っていませんよね。それはパブリックコメントと同じことという意味でしょうか。

事務局 以前は、パブリックコメントとは別に話を伺う機会を設けて、主には文化協会の方々にお越しいただき、ご意見を伺いました。今回は、本日欠席ではありますが、新しく委員として、横須賀市文化協会理事長にご就任いただきました。市民の方のご意見については、パブリック・コメントにより意見をいただくということにいたしました。

委員 わかりました。ありがとうございました。

委員 平成19年の文化振興条例、非常によくできている条例だと思いました。原点的なもの、一番基本になるものが示されておりまして、ここに立ち戻ることが大事だということを痛感しました。特に具体的な計画になりますと、どうしても細分化して、具体化されていきますので、どうしても元々の原点的なものが見えにくくなりがちですので、最初のほうでしっかり引用・紹介して進んでいくというのは大変いいことだと思います。

委員 ご意見ありがとうございました。

委員 委員の文化振興条例の件に関連しての質問です。文化振興条例ができていて、その後に国の文化芸術基本法ができて、それに合わせて、条例を改訂というプロセスを踏んでいることと思います。そうした中で、【文化】だけなのか【文化・芸術】と【芸術】が入ってくるのか、そこをどう受け止めていいかというのが難しいと思っています。

国の方では【芸術】を含めた話になっていますが、ここでは【芸術】が入っていない。例えば、芸術劇場とか美術館といったことは関わってはいますが、【芸術】というのは別に扱うべきものなのか、あるいは、【文化】の中に含めていいものなのかということをお聞きできればと思います。

事務局

文化芸術基本法にある【芸術】というところを今回の改訂において、「横須賀市文化芸術基本計画」といったように【芸術】を入れた方がいいのかどうかという点は検討したところです。また、他都市の状況を確認したところ、入っているところと入っていないところがありました。横須賀市の場合、文化振興条例第5条に「芸術等の振興」ということで、【芸術】というところも掲げています。文化振興基本計画は名称は今までのとおりで、中身をしっかりと変えていくということかどうかというところで、結論にいたしまして、お諮りしている次第です。

委員

議論なされたということですね。芸術を別にする必要があるというお考えがあるとすれば、それはどういうお考えがあったのでしょうか。

委員

元になる法律や条例があるので、【芸術】は触れないでほしいというスタンスなのかが心配で、【芸術】には触れていけないということかと思ったのですが、文化に含まれているということであれば、少し安心しました。

そうしますと、資料として付いています国の「文化芸術振興基本法」の文化芸術とは何かという中に、伝統芸能等だけではなく、音楽、美術、写真、演劇、あるいは、映画、漫画、アニメーション等のメディア芸術というものも入ってくるのですが、今までの議論ではあまり盛り込めていなかったのではないかと思います。それと、今回の諮問でもエンターテインメントの融合とありますし、新しい計画となってくるとそのあたりをもう少し表に出していく必要があるのかなと思いました。素案を見ていると、そういう面がちょっと弱いような気がします。

委員

国語教師の立場から申しますと、文化と並べて芸術というのは、ちょっと違和感があります。文化で全体をくくって、芸術やいろ

いろなものが入ってくるように思います。例えば、【芸術】だけ出してしまうと、他にもこれを入れた方がいいのではという話にもなり兼ねませんし、やはり文化で全体を抑えるというのがよろしいかと思ひます。そういう意味では、平成13年の法律に【芸術】を入れるのがむしろどうなのかなという印象も持ちました。

「文化芸術基本法」でも「文化・芸術を創造し」という言葉が入っていますので、当然のこととして、芸術が文化の中に含まれることは伝わると思ひます。タイトルにまで【芸術】を出すと、これも出せということになり兼ねないと思ひます。

委員

ご意見、ありがとうございます。

委員のご指摘にありましたとおり、近年、【芸術】という言葉の指すものがこれまでの伝統的な分野を超えて、とても広がってきております。「文化振興基本計画」という名称における【文化】が広いものに適用されるということを示す必要があるかもしれませぬ。

委員

名前に特にこだわりはありませんが、実態としてそこに何が含まれるのかというのは曖昧になってはいけなかなと思ひました。

事務局

今回の改訂案にあたっては、「文化振興条例」を市民の方に再度クローズアップし、見ていただくということで、国の「文化芸術振興基本法」は省いた案であります。ただ、言葉の定義づけやわかりやすさの面から考えますと、少し思い切り過ぎたように思ひますので、参考資料には「文化芸術振興基本法」は付けた方がいいと思ひ始めています。

委員

それでは、引き続き、検討いただくということでよろしくお願ひいたします。

第2章につきまして、さらにご意見をいただきたいと思ひます。いかがでしょうか。

委員

現行の計画、14ページに審議会の意見が記された箇所がありますが、「子供や高齢者だけでなく、10代後半から20代の若い

世代への働き掛けも計画に盛り込んでほしい」ということを前回提案したという記録があります。今回、どうだったかを気にしながら、改訂素案を見ておりましたが、11 ページの年代別の取り組みの認知度というところがありまして、一番落ち込んでいるのが 30 代なんですね。10 代、20 代と言っていましたが、30 代がすっぽり落ちている。30 代は子どもを育てる世代であって、横須賀で子どもを育てたいと思う人たちに認知度が低いというのは残念なことだなと思います。小さい子どもたちは親がいるからそこに住んでいるわけですし、高齢になってくるとそこにずっと住み続けているからというのがありますが、子どもと一緒にここに住みたいと、住む場所を決める世代に認知度が低いというのは何とかしなければいけないなと思いました。新しい素案の中にそういった年代の方たちが関心を持つものを正面に出していけないのかなと強く思いました。

委員 具体的にこういったことに関心があるのではというものはありますか。

委員 施策体系として、「はぐくむ」、「つたえる」、「ひろげる」というものがありますが、この 3 つの中に子育て世代や現役世代の人たちにアピールするものが入っていない、あるいは入りにくいように思います。辛うじて、「ひろげる」のところを拡大解釈して、エンターテイメント的なものを入れているんですが、正しく「ひろげる」とか交流ではないので、もっとダイレクトに「たのしむ」というような項目があってもいいのではないかと思います。

委員 具体的なご提案をいただきました。ありがとうございました。

委員 委員がおっしゃられることも確かなのですが、実はこういう活動に入ってこないのが 40 代～60 代の方々なんですね。70 代になる方は、横須賀が大きく発展していく時期に横須賀市内の各地に団地ができ、そういった場所を歩いてくれた。その頃に子どもだった人たちは横須賀っ子になっているから、何かもう 1 つ魅力が欠けていると思う。そのあたりがすっぽり落ちてしまっている。子どもたちに対しては「はぐくむ」ことをやっていく

ような提案があり、高齢者も同様にありますが、その間のところが全くないのが残念です。何をしたらいいのかというところと難しいところがありますが、社会の中でも一番忙しい、働いている世代に対して、何か工夫をしていかなければいけないのかなと思えました。まさに、事務局の年代が一番出てこない、自分たちが何をしたらいいか考えてみたらいいかもしれませんね。

事務局

個人の話になりますが、私は40代で、小学1年生と4歳の子供がいて、妻も働いています。平日は忙しい。土日に何をしようかとなりますが、子どもありきの生活リズムになってくるので、なかなか一人では出かけづらいです。土日にスポーツやエンタメに興味があるものはありますが、妻と子どもを置いて、出掛けようという気にはならないのが正直なところではあります。

子どもがサッカーをやっているのでも、親子サッカー教室や一緒にサッカーを見に行ったり、映画やコンサートに行ったりというのはありますが、あくまで子どもと一緒にという感じではあります。これを一般化していいかは別の話だと思いますが、これが我が家の状況ですね。

40代で子どもがいて、個人の活動をしようとなると心理的な制約があるので、積極的に活動できない。ただ、親子で参加するスポーツや音楽、工作といったものの方が参加しやすいというのはあります。40代の意見ということでお話しさせていただきました。

委員

現実に親子で何かをやるというのは、かなりたくさんの方が集まってくれます。今回、横須賀美術館で運慶展があり、大成功しましたが、親子でかなり見に来ていたようです。これは子ども向け、誰向けというのではなく、世代を超えた何かを考えていくことが必要なのかなと思います。そういったものがもう少し盛り込めるといいのかなと思います。

委員

その通りだと思いますね。

事務局

10月22日、29日に小中学生とその保護者を対象にティボディエ邸と浦賀ドックを見学するバスツアーを行います。普段なかなか入れない浦賀ドックを子どもたちと保護者の方に楽しんで

いただきたいというものです。以前、近代歴史遺産を見学するツアーを行っていましたが、それに似たような形で、文化振興課が主体となって、やっていきたいと思っています。

委員 それはどのあたりに広報されていたのですか。

事務局 広報よこすか9月号、観光部門で行っているツイッター、子育て世代向けの取り組みを行っている「すかりぶ」という事業のツイッター、インスタグラム、Facebookでお知らせしています。

委員 インスタグラム等はアカウントを持たなくても見られますか。

事務局 インスタグラムは難しいですね。ツイッターは見ることはできますが、検索で単語を絞らないとそこまでたどり着かないというのはあります。あくまで、SNSをフォロー、登録している方へのお知らせということになります。広報よこすかに関しては、町内会等を通じて、各世帯にお届けするような形になっています。

少し話は広がりますが、情報発信の課題として、興味がある人しか情報は届かないというところが難しいです。マスコミで大々的にでも取り上げられない限り、興味のない人には届かないですし、それは文化に限らず、どの分野においても課題かなと思います。解決が難しい課題だと思っています。

自分に興味がないものに対しては、誰もが反応しないので、そういった方にどうやってお知らせをするかというのはテレビCMや取り上げられでもしない限り、なかなか届かないのかもしれないと思っています。

委員 質問とルートミュージアムを使わせていただいた感想です。

まず、すごく驚いたのは横須賀市の高齢化がこんなに早いのか、これを何とかしなければいけないなと思いました。将来的に、横須賀に戻ってこようと思っているので、これはと思いました。そんな観点で改訂素案を読ませていただきました。

文化振興施策自体が高齢者の健康寿命にどれだけ寄与しているのかということを考えました。ただ、文化が広がりましたではなく、シニアの方々が寝たきりにならないとか経済力がつくとか、



部門は違うとは思いますが、そういった寄与度を考えてどれくらい作られてるのかというのは疑問に思いました。

また、先ほど世代の話がありましたが、横須賀市の人口の中の世代の割合があると思いますが、それを勘案した上での文化施策のウエイトなのかということをお教えください。40代は横須賀市の中で何パーセントいるのか、そういったものも反映されるのかと思います。

ルートミュージアムをプライベートで使わせていただきました。使い勝手は良かったのですが、2つ、気が付いたことがありました。

1つ目はもっと情報を発信しやすいといいなと思いました。動きやすく見やすいのですが、写真を撮ってツイッターで投稿して、というところがもう少し簡単にできたらいいなと思いました。

2つ目は、発信するとしてもその日で終わってしまうということです。例えば、発信したことや、その内容が3、4か月後までに残るようなものがあればいいなと思いました。スマホの中で、去年の今頃こうしていたという情報が出てきたりするように、「去年の今頃、横須賀にいましたよね」というようなものが出てきて、思い出していただき、改めてツイートしたり、友達にシェアしたり、その時だけでなく、1年2年しても情報が残っていくようなそんなことがもしできるのであれば、デジタル部門の方と連携しながらやっていただけると嬉しいなと思いました。全体として操作方法は、わかりやすかったと思います。

もう1つ、次世代に対して、特に子どもに向けての循環型社会というモデル、14ページの「はぐくむ」の部分です。

素晴らしいと思うのですが、これまでのご意見にもありましたが、子ども達が次の横須賀を育てて作ってくれるという循環モデルになるわけですね。そういったものが図として出てくるとイメージがわかりやすいと思います。子どもが文化の芽をはぐくみ、親になってから子どもに伝え、高齢者になってからは孫に伝え、というようなイメージ図があるとわかりやすいのかなと思います。

事務局

循環型モデルという話では、学校から6年生を対象に出前授業という形で依頼をいただき、文化行政専門委員を講師として、鴨

居小学校に行ってきました。

小学校の体育館に6年1組と2組の子ども達に古代から鎌倉の大河ドラマの話も絡めながら、近代への話をさせていただき、地元への愛着や鴨居は良いところなんだという思いを持っていただくようないい講義でした。その出前授業から地元、横須賀の誇りやきっかけを何かお子さんが持って、中学校、高校、大学と、もし引っ越してもまた横須賀に戻ってきたいなというような、目に見えるか見えないかというのは難しいですが、きっかけを持つような何かできるものがあつたらという思いで出前授業を進めているところです。

令和4年度は近代の話だけでなく、大河ドラマをやっています関係で、三浦一族絡みで、鎌倉時代の三浦一族の活躍と芸術の分野では三味線を出前授業のメニューに加えました。できることから少しずつやっていきたいなということを考えて動いております。

また、ルートミュージアム絡みで、明治20年ころのドライドック、ペリーの上陸シーンなどをスマホのアプリで、VRでご覧いただけるというものがあります。また、解説付きなので、外国の方に対しては、多言語での対応も可能となっています。出かけて行かないと楽しむことができない、出てきてもらおうという発想で作ったものです。1回で終わってしまうというのは確かにおっしゃる通りです。例えば、1年後にまたそのVR画像が出てくるとか、また行ってみたいねと思い出させるのはどうかという機能は失念していたものですから、可能なところは改善できるのではないかとお話を聞きながら思いました。

## 委員

横須賀美術館の運慶展は身近な話題が多く、横須賀美術館の中でもヒットの展覧会だったのではないかと思います。日頃、美術館に興味のない人も運慶展は話題にあがって、近くの浄楽寺、満願寺、満昌寺など身近なところにベースがあつたので、歴史と仏像、また、金沢文庫の協力もとてもよかったと思います。横須賀の地域の文化、歴史と絡んだ内容でしたので、成功したように思います。

交通手段が横須賀はネックになっていて、横須賀線は逗子止まりがほとんどで、逗子でも20分待たなくてはならず、横須賀に直行というのは1時間に1本くらいしかないんですね。

京浜急行はまぐろきっぷや女子旅等いろいろなチケットを出していて、その中で横須賀も出てくると動きがあるのではないかと思います。

最近、千代ヶ崎を見たとか軍港クルーズに乗ったとか横須賀の魅力を感じた方や今まで平面的であったのが、奥まった横須賀を知って、来てみたら海が近くて空気がよくて、横須賀が住みやすい感じがするという40代、50代の方が何人かいらっしやったんですね。家賃も安いし、物価も安いしとオススメをしています。電車のアクセスの部分は市民及び訪問者の利便性を高める必要があると思います。1つ提案できたらというのがあったのですが、逗子で止まった後に、行政の力ではないのかもしれませんが逗子から久里浜間をピストンで動かすことができれば、地域にとっては便利になると思うのです。現在、逗子から先は切り捨て状態なんですよ。交通アクセスがやはり横須賀の問題なのかなと思います。

文化は数値に出ないし、どこを評価するかは個人差があるし、文化は外から見るとはなく、中側から、個人個人から沸き起こって、横須賀に住みたい、興味を持って住んでよかったという地道に、小さなものから根付くようなことだと思います。

横須賀市の魅力は自然環境の他に他市とは異なる軍事的な歴史遺産があります、例えば千代ヶ崎や猿島などは現代においても意義ある遺産として活用できると考えています。そういった幕末以降の横須賀の成り立ちに関して、前に出して磨いてゆくことはますます大切だと思います。

委員 コロナ禍で電車に乗ることを避けていた時期がありまして、散歩をよくしておりました。それで横須賀の散歩はとても面白いということがわかりました。あちこちに歴史のプレートがあることにも気づきました。

逸見から汐入に抜ける急階段や山崎トンネルの上の方から富士見町への道も、変化に富んだ自然や風景が楽しめます。庚申塔などもたくさんあつたりしますし、どうしてそのような街並みができるのか、説明がもっとあると面白いと思いました。

委員 坂道については、横須賀の坂道というブログがあり、大変面白い

です。委員長がおっしゃられましたとおり、横須賀の坂道とお調べいただくと出てくると思いますので、ぜひ見ていただけるとよいと思います。

## 委 員

こんな項目を入れていただいたらどうだろうという提案です。「はぐくむ」、「つたえる」、「ひろげる」と3つあるのですが、私は中心になるのは「つたえる」だと思っています。「つたえる」の中でも身近な歴史を伝えることが大事だと思っています。以前の計画を作る段階から、身近な歴史ということを申し上げていますが、改訂素案で言いますと、20 ページに身近な歴史というのが入っているのですが、具体的にこんなことをというものがもっともっと多く工夫されていいのではないかと思います。以前、久里浜で歴史の本がありましたが、地域の歴史に特化したパンフレットや古老の方からの聞き書き集、よくある企画ですが、古い写真を提供していただくような催し、町並みの復元地図といったものも一般の方も関心をお持ちなのではないかと思います。

縁遠い歴史ではなく、自分のいたところがかつてどうだったのだろうか、それがどうなってきたのかというものへの関心はとても強いです。ただ、それを知ろうとすると、それに応えるものや企画が必ずしも充実していないということがある。身近な歴史をいろいろなところで充実させていくということ、おそらく、その起点になるのはコミュニティセンターだと思うのですが、十分でないという印象を以前から抱いています。あらゆる地域にコミセンがありますから、そこを起点に今申し上げたような企画を展開していくと、もっと一般の方の要望にも応えられると思います。アンケートを見ても、歴史絡みの取り組みへの関心の高さははっきり出ていますし、旧計画のアンケートですが、できることなら文化・芸術活動に参加したいという声も非常に高いので、身近な歴史的なもので希望に応えられるもの、皆さんが参加できるようなものを考えていくとよいのではないかと思います。

私も写真や地図だけでなく、もう少し具体的に何かないか考えたのですが、従来からあるパターンのものしか思いつきませんでしたが、身近な歴史の部分の充実を期待したいと思います。

事務局

最近で言いますと、汐入小学校が創立 150 年ということで、昔の写真はありますかと尋ねられました。当課にありました昭和 30 年代の EM クラブや臨海公園といった古い街並みの写真がありましたので、学校にお貸し出しをしました。身近な歴史の話ということで、最近ありました話をご紹介します。

また、坂や道の話ですが、開国史研究会の史跡めぐりという企画に同行させていただくことがあります。そういった企画でないとなかなか行かない道もありますし、そういった街の面白さを会員の方だけでなく、市民の皆さんにも知っていただく機会があるといいのかなと思いました。

コミュニティセンターの話がありました。昨年度、コミュニティセンターの企画担当の職員を対象に、ティボディエ邸を訪問する企画立案に繋がればということで、ティボディエ邸と浦賀ドックを見学する機会を設けました。少しずつではありますが、コミュニティセンターから企画の相談を文化振興課に持ち掛けられましたので、今後もそういった関係性を構築できればいいのかなとご意見を伺いながら感じました。

事務局

大変貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。皆さまからのご意見は、日頃、私達が課題としていたり、横須賀市の大きな問題であったり、正しくそうだなと思いながら聞いておりました。

この計画の作り方なのですが、本市の取り扱いとしては、指標をつくり、モニタリングをしていくことが必要なため、目標と結果を継続的に追うものが必要ということで、単発の事業も多くあるのですが、それを載せにくいという事情があります。手前味噌ですが、大河ドラマに合わせて発行した三浦一族に関する冊子を製作したところ、すぐになくなってしまいました。

また、文化スポーツ観光部において、衣笠商店街や衣笠コミュニティセンターとも連携していますが、タイムリーな事業はその都度、行っている状況です。

長期的な課題や世代的な問題については、文化振興課としてだけでなく、本市全体の課題として認識していきたいと思えます。

委員

今日が第 1 回ということで、継続的にご意見をいただければと思います。他に何かご意見はございますか。

委員 改訂素案の 15 ページにキャッチフレーズが出てくるのですが、わかるようなわからないようなものなののですが、どういうことなのでしょう。

「ワクワクがあふれ出すまち～心豊かで潤いと活力のある横須賀～」というのは目指すところというのはわかるのですが、その下の「誰も一人にさせない」という SDGs のようなものが出てきて、どういうコンセプトなのか、「ワクワクが～」とどう繋がっていくのかがよくわかりませんでした。あと、「文化でつながる、よかったありがとう」と感謝されても・・・という気がしますし、このあたりのロジックがもう少しはつきりすると思いました。

事務局 本市が今掲げているのが「誰も一人にさせないまち」ということで、思いやりを持ってというような気持ちで、そういった街にしようという思いがあって、それが文化で繋がるといった表現としました。

「はぐくむ」、「つたえる」、「ひろげる」というのは、ビジョンのワクワクがあふれ出すまちという施策があって、参加してみようとか出かけてみようとか、楽しんでみようとか、そういった前向きな気持ちになるような現計画の踏襲です。市民の方々や横須賀に携わる人が、気が付いたら文化に触れているみたいな、そんな感じで、市が率先して引っ張っていくというのではなく、じわじわというようなことを踏まえて、いろいろな動きをしていく中で、心豊かな、心のビタミンみたいな、そういったところから、「自分は一人じゃないんだな」と、心が折れかけた時に音楽で癒されるとか絵画を見て和んだなとか、そういったところが段々と繋がっていくと、変化を力に進むまちというビジョンの、2030 年に目指していくまちの未来像に近づくのかなと思った内容というところです。

分野別計画にも合致してということで、ちょっと振り切れてしまった表現かもしれませんが、そんな思いをイメージ図で入れさせていただいたところです。

委員 単語だけだとそれがどう結びつくのかがわかりづらかったですが、ご説明いただき、わかりました。

事務局 YOKOSUKA ビジョンから取っているとか市の方向性であるとか注釈のようなものを入れて、どうしてこのような図になっているのかを説明していくように考えていきたいと思います。

委員 イメージ図はわかりやすいのですが、ゴールと言いますか、終わるとどうなるかという部分が見えにくいので、そこをもう少し明確にしていただけると、頑張れるかなと思いました。  
また、イメージ図の中に数値的目標というのはあるのでしょうか。数値として見える化できるものがあるといいと思いました。

事務局 文化振興基本計画は継承、続けていくことが最終目標だと考えています。文化スポーツ観光部では、観光とスポーツの計画も策定中ですが、観光であれば観光客数や消費額、スポーツであれば参加人数といった数値を目標として設定できますが、文化については目標を数値で表すものではないということで、ずっと続けて大事にしていくもので、最終目標は継承ということになると思いますが、そのあたりがうまくお伝えできていないかなと感じました。

委員 よくわかりました。ありがとうございました。

事務局 委員から話のありました運慶展についてですが、横須賀美術館の企画展の中で観覧者数がベスト3に入ったということで、歴史に絡んだ展示、衣笠商店街との連携など文化スポーツ観光部に横須賀美術館の所管が教育委員会に変わったこと、教育委員会から市長部局に移り、教育施設からいかに観光、稼ぐようなところを新たな展開ができるのではないかとということで、機構改革をした今年、運慶展が成功をしたというところです。魅力をさらに文化スポーツ観光部が活用とした側面を美術館の今後の展開に続けていこうと動いております。

また、交通のアクセスで、市としては、JRさんへの要望は継続的に行っているところです。文化スポーツ観光部とすると、観光課というところがございまして、JRとコラボして街歩きというような企画をして、JR田浦駅だとかJR横須賀駅だとかからのスタンプラリーだとかってというような、JRの魅力とともに市内のスポットを歩くような企画を行っています。

文化振興課としましては、ティボディエ邸をどうか終点にしてくれませんかということで、最終的にいろいろなところを回ったうえで、ティボディエ邸に寄っていただいたところで、記念品を渡すとか、中を見てもらって、面白そうだねとかシアター入ってみようかなとか、入館者数を何とか増やして、いろいろなきっかけを、今後またリピーターとして来ていただけるような施策を作っているというようなことを対応しているところです。また、市民の方々を対象にミニツアーを開催するなど積み上げをしながら、横須賀の魅力を伝えていっているというような活動をしています。

委員 JRに働き掛けていただいているのですね。ありがとうございます。

事務局 京浜急行にも市としてお願いをしていくところではあります。

## 5 その他について

委員 それでは、次第5のその他に移りたいと思います。

事務局 次回の開催スケジュールの話をさせていただきます。  
委員の皆さまのご都合を合わせていただくのは大変恐縮なのですが、今回は11月10日木曜日、午後2時から301会議室で、第2回の審議会を行いたいと思っております。  
今日、欠席された委員の方にも、欠席の連絡をいただいた際には、今回は会議室の関係で11月10日いかがですかという話をさせていただいたところ、皆さまから今回は大丈夫ですというお返事をいただいております。ご報告させていただきます。

事務局 今日の審議でお話いただいた内容について、簡単にまとめさせていただきました。  
改訂素案における検討事項ということで、20代・30代の認知度の低さへの働きかけ、例えば「楽しむ」というような重点項目の検討というご意見を委員からいただきました。  
40代～60代への取り組み、例えば、親子や世代を超えた取り組みというようなご意見をいただきました。  
次世代への循環型社会というモデル、イメージ図があった方が



いいのではというご意見がありました。  
縁遠い歴史ではなく、「身近な歴史」を伝えていく取り組みが大切であるという意見をいただきました。  
改訂素案 15 ページのイメージ図、「誰も一人にさせないまち」等の表現について、注釈を入れるなど、わかりやすく伝える、見せることが必要という話がありました。また、ゴールや最終目標について、イメージ図に入れるのか、別の形になるかわかりませんが、伝え方や見せ方を事務局側で修正するという話をいたしました。  
横須賀市の課題として、いろいろ課題は出てきましたが、高齢化と交通アクセスという部分が話の中では大きかったのかなと思います。  
以上、今日の審議会の内容を委員の皆さまで共有することで、簡単にまとめさせていただきました。

- 事務局 次回審議会では、本日ご欠席の委員の皆さまのご意見をいただきながら、改訂素案を一部手直しして、お示ししたいと思います。また、別紙 1 の資料について、ご審議いただきたいと思います。
- 委員 承知いたしました。皆さま、どうぞよろしく願いいたします。では、これを持ちまして、閉会といたします。